

第1回みやぎ観光振興会議 気仙沼・本吉圏域会議

開催結果概要

(1) 圏域の観光の現状

- 震災から9年を経て観光客数は回復傾向にあるものの、震災前の水準には戻っていない。
- 三陸道延伸、気仙沼がNHK朝ドラの舞台として決定するなどポジティブな動きがある。
- 安全安心を提供するためのコスト増など事業を行う環境が厳しくなっている。
- 関東圏等感染症が拡大している地域との往来にはまだまだ躊躇がみられる。
- 密になりやすい屋内の観光が避けられ、アウトドアの観光が好まれる傾向の中で、自然豊かな当圏域での観光は注目されている。

(2) 圏域の観光の課題

- コロナ拡大により変化した観光に対するニーズを的確に捉え、振興施策を講ずる必要がある。当面は、県内在住者の県内における観光需要にどう対応して行くかが課題
- 観光振興施策の検討に当たり、過去の実績の検証及び評価がなされていない
- 都市部などに対し圏域の魅力を効果的に伝えるための情報発信力が弱い。
- 仙台空港や仙台駅からの交通接続が良くないため、当圏域を訪れるためには交通費が嵩む。
- 圏域内の魅力的なコンテンツの周知や連携の不足等により、圏域内の周遊を促進するような観光商品がない。

(3) 委員からの主な意見（具体的な施策ほか）

- CF事業は、複雑で利用しづらく事業者の規模や情報発信力により差が出る可能性がある。割引券の発行等分かりやすい支援策にすべきである。
- 新しい生活様式に対応するための施設の改装費用、衛生用品購入等に対する助成制度
- 県南地域と県北地域間相互の誘客を促進する利用券の発行
- 登米市、栗原市、岩手県南部地域との広域連携観光商品の造成
- マリンスポーツ、釣り、キャンプ等アウトドア観光と宿泊・食事をセットにした観光商品の造成
- 宿泊業者だけではなく飲食店に対する支援も必要である。
- 感染症予防対策を万全にしても完全に防止することは出来ない。第2波、第3波に備え、施設内で感染症が発生してしまった場合の県としての対応策等を示してほしい。